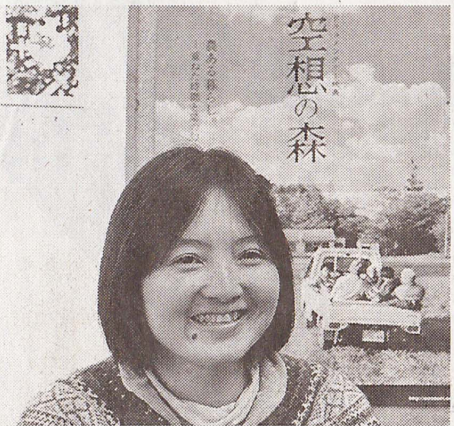


来月19日から大津で上映

# ドキュメンタリー 「空想の森」を見て 田代監督がPR



映画「空想の森」について話す田代陽子監督＝大津市の滋賀会館で

影を再開した。「二人でも撮るつもりだった。被写体になってくれた人への恩返しは完成させることだったから」と振り返る。映画は七年かかって完成した。「生き方や価値観に不安を抱える人に、この映画が届けば」と話す。

上映は二月十九、二十、十八日。期間中、田代さんも同館で上映に立ち会う。問い合わせは同館シネマホール電話077(522)6232へ。

二月十九日から大津市の滋賀会館シネマホールで上映されるドキュメンタリー映画「空想の森」の監督・田代陽子さん(四三)北海道帯広市が二十五日、映画のPRのため同館を訪れた。

(猪飼なつみ)

田代さんは一九九六年、「SHINTOKU空想の森映画祭」(北海道新得町)で初めてドキュメンタリー映画に出合った。映画制作にかかわるようになり、新得町を舞台に映画を作りたいと思うようになった。

映画は子育てをしながら野菜を作る夫婦ら二家族を中心に、食卓での風景や土の上で働く姿など日々の暮らしを追う。被写体との距離感にこだわり、撮影はカメラのズームを使わず、撮影者が近づいたり遠ざかったりしながら一緒に暮らしていた。演出も一切なしだ。

田代さんは二〇〇二年ごろから撮り始めたが、資金不足などで二